

NPO 横断型基幹科学技術研究団体連合  
2023 年度 第 2 回理事会 議事録

日時：2023 年 8 月 25 日(金) 15:00～17:00  
場所：横幹連合事務局を拠点とするハイブリッド開催

出席者（敬称略、順不同）

理事：安岡善文、椿 広計、藤田政之、伊東明彦(Web)、川中孝章、佐藤一弘(Web)、  
林 聖子(Web)、藤井 享(Web)、吉見 卓(Web)、青山和浩(Web)、伊藤 誠(Web)、  
猪原健弘、大江秋津(Web)、下野僚子(Web)、鷹羽浄嗣(Web)、田中敏幸、長沢伸也(Web)、  
早川 有、水田正弘(Web)、山上 伸(Web) (20 名)

評議提出理事：伊藤 敦 (1 名)

監 事：本多 敏(Web)、川崎 茂(Web) (2 名)

事務局：並木正美

欠席者（敬称略、順不同）

理 事：林 勲、皆川健多郎 (2 名)

監 事：なし

配布資料

- [ 1 ] 2023 年度第 1 回理事会議事録(案)、同議事録抄録(案)
- [ 2 ] 2023 年度第 1 回運営会議議事録(案)
- [ 3 ] 2023 年度常置委員会の副委員長および委員について
- [ 4 ] 木村賞審査委員会委員長について
- [ 5 ] 木村賞審査手続きについて
- [ 6 ] 次期役員候補者推薦委員会の設置について
- [ 7 ] コトづくり至宝発掘事業についての進め方と規則改正について
- [ 8 ] 第 14 回横幹連合コンファレンス進捗状況
- [ 9 ] 第 2 回 20 周年記念事業実行委員会議事メモ(案)
- [10] 企画・事業委員会報告
- [11] 学術・国際委員会報告
- [12] 産学連携委員会報告
- [13] 会誌編集委員会報告
- [14] 2023 年度年間計画(案)
- [15] 活動計算書他

議事：

- I. 理事会成立の確認：理事総数 23 名、出席者 21 名
- II. 議事録署名人の指名  
議事録署名人：安岡会長（議長）、椿副会長、藤田副会長
- III. 2023 年度第 1 回理事会議事録(案)、同議事録抄録(案)の承認  
・2023 年度第 1 回理事会議事録(案)および同議事録抄録(案)について、これを承認した。
- IV. 2023 年度第 1 回運営会議議事録(案)の確認  
・2023 年度第 1 回運営会議議事録(案)を確認した。
- V. 審議事項・報告事項等

A 審議事項

A-1 2023 年度常置委員会の副委員長および委員について

- ・早川総務・会員委員長より、資料 [ 3 ] に基づき、次の説明があった。

昨年度に制定された常置委員会の規程に基づき、各常置委員会より委員名簿が提出され、総務・会員委員会にて取りまとめを行った。委員の委嘱に関しては理事会の承認を経て会長が行うとされている。前回理事会で承認された委員長を含む、副委員長および委員の名簿を提案するので、理事会の承認を求めたい。

- ・安岡会長より、委員の追加および交代は年度の途中でも可能であること、本日の承認を経て発令を行うことが補足された。
- ・安岡会長より、本議案について質問が求められたが特になく、投票による賛否を求めることとした。
- ・出席者による投票の結果、会長および監事を除く 16 名および事前評議提出 1 名と合わせて 17 名からの賛成が得られたことを事務局で確認し、出席理事の過半数の賛成が得られたので、本議案は承認可決された。

#### A-2 木村賞審査委員会委員長について

- ・安岡会長より、資料 [4] に基づき、次の説明があった。  
木村賞審査委員会は、規程により委員長、幹事、委員から構成されることになっている。これに従い委員長として学術・国際委員会を担当する藤田副会長にこれをお願いすることとしたい。
- ・安岡会長より、本議案について質問が求められたが特になく、投票による賛否を求めることとした。
- ・出席者による投票の結果、会長および監事を除く 17 名および事前評議提出 1 名と合わせて 18 名からの賛成が得られたことを事務局で確認し、出席理事の過半数の賛成が得られたので、本議案は承認可決された。

#### A-3 木村賞審査手続きについて

- ・藤田木村賞審査委員会委員長より、資料 [5] に基づき、委員会の設置および木村賞審査手続きについて説明があった。委員会の構成は、委員長：藤田、幹事：早川総務・会員委員長、委員：西野プログラム委員長および猪原理事(総務・会員委)、吉見理事(学術・国際委)、佐藤理事(産学連携委)とし、審査に当たっては役員全員および学術・国際委員会委員にて行うこととしたい。また、審査結果の報告はメールに変えて電子化する方向で準備を進めていることが説明された。
- ・安岡会長より、本議案について質問が求められたが特になく、投票による賛否を求めることとした。
- ・出席者による投票の結果、会長および監事を除く 19 名および事前評議提出 1 名と合わせて 20 名からの賛成が得られたことを事務局で確認し、出席理事の過半数の賛成が得られたので、本議案は承認可決された。

#### A-4 次期役員候補者推薦委員会の設置について

- ・安岡会長より、資料 [6] に基づき、次期役員候補者推薦委員会の設置について説明があり、申し合わせに従い、椿副会長、早川理事、伊藤(誠)理事および並木事務局長を委員とするものの提案があった。
- ・安岡会長より、本議案について質問が求められたが特になく、投票による賛否を求めることとした。
- ・出席者による投票の結果、会長および監事を除く 16 名および事前評議提出 1 名と合わせて 17 名からの賛成が得られたことを事務局で確認し、出席理事の過半数の賛成が得られたので、本議案は承認可決された。
- ・安岡会長より、本委員会の委員長については申し合わせに基づき、委員の互選により選任されることが補足された。

#### A-5 コトづくり至宝発掘事業についての進め方と規則改正について

- ・川中企画・事業副委員長より、資料 [7] に基づき、次の説明があった。  
これまでは、「コトづくり至宝発掘事業規則」に基づき、コトづくりコレクションの選出を行ってきたが、至宝の選出にも対応できるように規則を改正することとし、加えて「コトづくり至宝の選出方法」についても次のように定めることとしたい。  
1) 選出間隔は 2 年に 1 回とする。2) 至宝検討委員会を設置する。3) コンファレンスでの意向投票を行い候補の絞り込みを行う。4) それを受けて至宝検討委員会で選出を行う。  
以上を踏まえて、「コトづくり至宝発掘」事業規則の改正案を提案するので、理事会の承認を得たい。
- ・安岡会長より、規則の中で定義されている「コトづくり」が、長野宣言のそれとは異なっているが、

今後のコトづくり概念の明確化に向けて一つの考え方となる、との指摘があった。川中副委員長から、コトづくり至宝発掘事業では、この様に定義してコレクションを集めてきたとの説明があった。さらに「有形物を含む事象から思想や方法論など、有形物を含まない活動まで」の表記について、「有形物を含む事象から、思想や方法論など有形物を含まない活動まで」と読点の位置を変えるのが良いのではとの提案があり、意見交換を行った。

- ・安岡会長より、「モノづくり」や「コトづくり」に関しては昨年の会長懇談会でも意見が出ており明確にする必要があることを認識している。今回の規則の改正は、定義を正しく解釈するため読点の位置を変えるという軽微な修正を行うことを含めて、承認を得ることとしたい。20周年を契機に、本質的な部分はさらに議論を深めて行きたいとの発言があった。
- ・安岡会長より、本議案についてさらに意見が求められたが特になく、投票による賛否を求めることとした。
- ・出席者による投票の結果、会長および監事を除く18名および事前評議提出1名と合わせて19名からの賛成が得られたことを事務局で確認し、出席理事の過半数の賛成が得られたので、本議案は承認可決された。

## B 報告事項

### B-1 第14回横幹連合コンファレンス準備状況報告

- ・青山実行委員長より、資料〔8〕に基づき、次の報告があった。
  - 1) 企画セッションの提案申し込みを9月1日まで延長した。
  - 2) 講演申込、論文提出、参加登録は例年のコンファレンスの日程に従って設定されている。
  - 3) 特別講演・プレナリー講演については未定である。
  - 4) HPは公開中である。
  - 5) ポスターは作成済みであるが共催団体について確定できていない。
  - 6) 学内のマップはHPで公開中である。
  - 7) 講演室等については十分な部屋数を予約済みである。
  - 8) 懇親会場は山上会館が予約済みであったため、工学部2号館展示室を確保してある。
  - 9) 企画セッションは現時点で14の応募があるが、もう少し増えることを期待している。
- ・安岡会長より、特別講演・プレナリー講演を早急に決めて欲しいとの要望があった。
- ・事務局より、1) 企画セッションの採択通知について、2) 会場の下見の手配について、の要望があった。

### B-2 20周年記念式典報告

- ・椿副会長より、資料〔9〕に基づき、次の報告があった。

7月3日に実行委員会を開催。小谷氏の講演が好評であったこと、今後の進め方に関して資料に抜けが無いかを確認中であること、「モノづくり」「コトづくり」に関しては別途記事にまとめる動きがあることなどが報告された。
- ・続いて事務局より、記念事業の収支の状況について説明があり、当初予算では△619千円の予定であったが、現時点で懇親会の参加費収入に若干未収があるものの、支出は確定しており△522千円となる見込みであることが報告された。

### B-3 各委員会からの活動報告

#### (1) 企画・事業委員会

- ・椿委員長より、資料〔10〕に基づき、次の報告があった。

8月10日に委員会を開催。1) 委員名簿の確認、2) 副委員長の選出、3) 2023年度活動予定の確認および20周年記念事業の報告、4) 「コトづくり至宝発掘」事業規則の改正、5) 調査研究会の立ち上げ、6) ロードマップ改定に向けた検討の開始について議論を行った。

調査研究会の立ち上げについては、「TD (Transdisciplinary) 概念の明確化とその研究評価システムに関する調査研究会」と題し、10月の理事会での立ち上げを予定している。なお、本研究会に関連して、今年のコンファレンスでの企画セッションの提案もなされている。

ロードマップについては、新横幹図の概念にロードマップの考え方は入っているので、その改訂が必要ではないかということで意見交換を行い、WGを作って議論を継続することになった。
- ・安岡会長より、調査研究会の立ち上げについて補足説明があり、20周年記念事業ではないがその覚悟で進めていきたいと抱負が述べられた。
- ・藤田副会長より、コンファレンスの企画セッションとして提案されているものを、特別企画とするなどの検討もできるのではとの発言があった。

(2) 総務・会員委員会

・特になし。

(3) 学術・国際委員会

・藤田委員長より、資料 [11] に基づいて、次の報告があった。

1) 第 1 回委員会をメール審議にて開催、日本感性工学会の第 25 回人感性工学大会の協賛を承認した。2) 第 2 回委員会をメール審議にて開催、日本科学振興協会より年次大会「会いに行ける科学者フェス」の広報依頼を承認した。3) 第 14 回横幹連合コンファレンスの実行委員会およびプログラム委員会の引継ぎ会を開催した。4) 委員会の副委員長を決定した。5) 第 3 回委員会を 8 月 29 日に開催する予定であり、コンファレンスの進捗状況の確認と、調査研究会の設置について検討を行う予定である。

(4) 産学連携委員会

・藤井委員長に変わり安岡会長より、資料 [12] に基づき、第 60 回横幹技術フォーラムの状況について報告があった。

(5) 広報・出版委員会

・特になし。

(6) 会誌編集委員会

・伊藤委員長より、資料 [13] に基づき、次の報告があった。

17 巻 2 号は予定をしていた論説、解説やトピックは順調に進んでいるが、投稿のあった原著論文 2 件が一旦返却となっている。横幹誌での原著論文の審査に関する対策が必要ではと考えている。

20 周年特別号は、記念式典での特別講演の講師に打診を行ったが、丁重なお断りがあった。10 年の歩みについては調整が必要であるが若干遅れている。

C その他

C-1 2023 年度年間計画（案）について

・事務局より、資料 [14] に基づき、次の説明があった。

各常置委員会の活動状況を反映させて資料の更新を行っている。次回の運営会議は 9 月 20 日、理事会は 10 月 25 日に予定されている。

C-2 会計報告

・事務局より、資料 [15] に基づき、次の説明があった。

7 月末での収益は 1,781 千円、費用は、事業費で 1,055 千円、管理費で 355 千円の合計 1,410 千円であり、一般正味財産の増減額は 371 千円となっている。これに指定正味財産を加えた次期繰越正味財産額は 8,126 円である。これを貸借対照表で表すと、流動資産は、現金および預金が 6,704 千円であり、これに固定資産の基金と木村賞基金の合計 1,427 千円を加えた資産合計は 8,131 千円となっている。また、負債は流動負債が預り金(源泉所得税と住民税)で 6 千円あり、一般正味財産と指定正味財産の残額を合わせた額は 8,125 千円となり、活動計算書のそれと一致している。注記では、事業ごとの収支の状況を表わされている。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2023 年 8 月 25 日

議長 安岡 善文 印

議事録署名人 椿 広計 印

議事録署名人 藤田 政之 印